

- 東大和市では、市の北部に位置する狭山丘陵の豊かな自然の保護及び市民の「憩いの場」を提供するために、昭和59年に東大和市立狭山緑地を開設し、その役目を果たすために、整備及び植生の維持管理を行っている。
- 令和4年度は幼児用木製複合遊具と児童用木製複合遊具を各1基及び木製テーブルベンチ2基、木製ベンチ3基を設置した。

□ 事業内容

1 木製遊具等設置工事

- ・狭山緑地のフィールドアスレチックに多摩産の木材を使用した、幼児用木製複合遊具と児童用木製複合遊具を各1基及び木製テーブルベンチ2基、木製ベンチ3基を設置した。

【事業費】56,699千円（うち譲与税8,782千円）

【実績】木材使用量 6.677m³

□ 取組の背景

- ・フィールドアスレチックでは当初の整備から相当の年数が経過し、既存遊具の多くが経年劣化により撤去が進んでいた。
- ・市内北部には公園数が少なく、施設拡充の要望が多く上がっていた。
- ・当該緑地ではナラ枯れ被害対策のための樹木伐採により、活用できるスペースが拓けていた。



(1：東大和市立狭山緑地位置図)

□ 工夫・留意した点

- ・当該遊具等設置箇所は傾斜地に位置し、遊具設置位置や導線に工夫が必要だった。
- ・複合遊具は、パーツの組み合わせが自由なため、より多くの利用者が楽しめるような組み合わせを工夫した。

□ 取組の効果

- ・木製複合遊具等が設置されたことにより、狭山緑地を訪れる人数が大幅に増え、狭山緑地の魅力を伝えるとともに、自然と触れ合う機会の創設にも寄与することができ、地域の活性化にも大きく貢献した。



(2：児童用木製複合遊具)



(3：幼児用木製複合遊具)

◇ 基礎データ

①令和4年度譲与額：8,782千円	②私有林人工林面積（※1）：2ha	
③林野率（※1）：15.1%	④人口（※2）：83,901人	⑤林業就業者数（※2）：3人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「令和2年度国勢調査」より